

両側同時前十字靭帯再々建術を施行した 1 例

渡辺 裕介¹⁾、湯朝 友基²⁾、張 敬範²⁾、江本 玄²⁾

1) 江本ニーアンドスポーツクリニック リハビリテーション部

2) 江本ニーアンドスポーツクリニック 整形外科

【はじめに】

第 22 回日本臨床スポーツ医学会にて両側同時前十字靭帯再々建術（以下 B-ACLR）の良好な術後経過を報告した。今回、B-ACLR の術後 2 年間の経過観察が行えたので報告する。

【症例紹介】

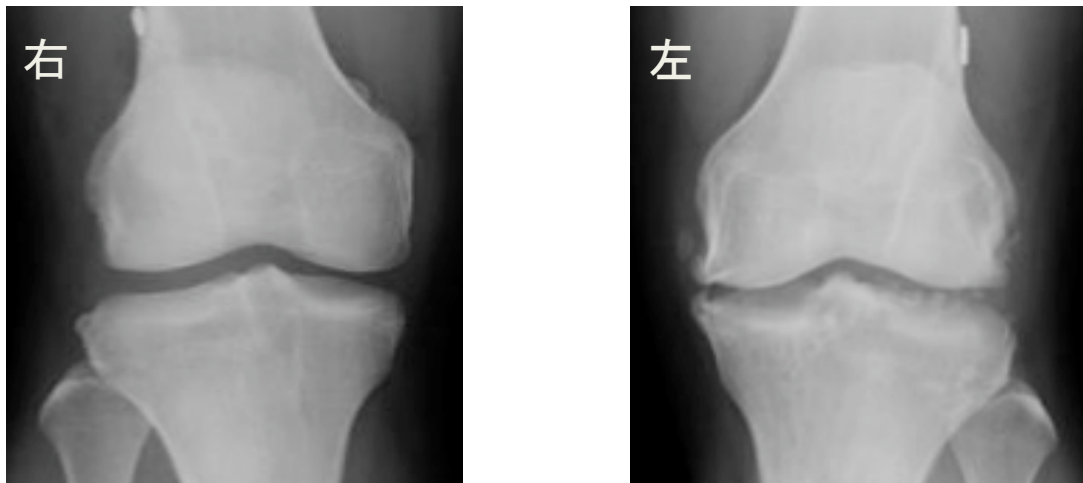
29 歳 男性 スポーツ：サッカー（レクリエーションレベル） ポジション：指定なし
頻度：週 2 回 職業：宅配業

【現病歴】

H13、14 年 他院にて膝前十字靭帯再建術（以下 ACLR）施行。左膝は不安定性残存。
左膝関節の不安定性残存するもスポーツは継続。

H22 年 1 月 サッカープレー中に右膝再受傷。当院受診し、両膝前十字靭帯再断裂と診断。

【初診時単純 X 線（正面像）】

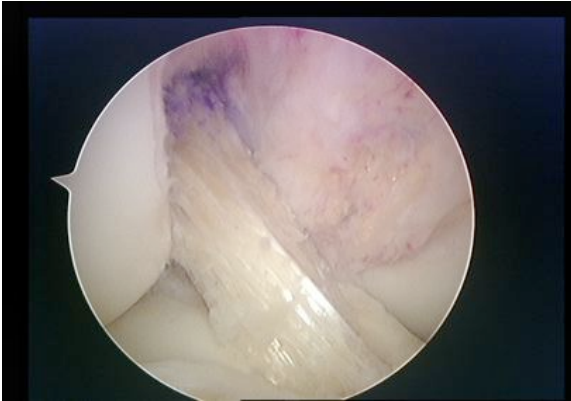


左膝関節の著明な関節症性変化を認める

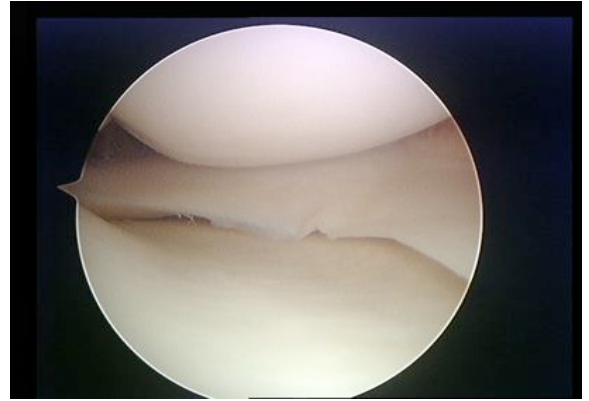
【関節内所見】

H23年3月に骨付き膝蓋腱（以下 BTB）を用いて、再々建術を施行。

右膝

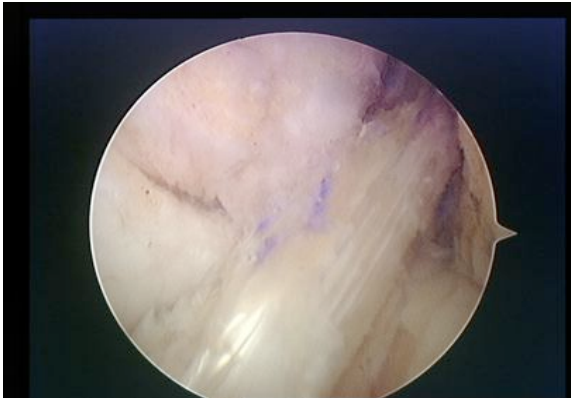


BTB を用いて再々建

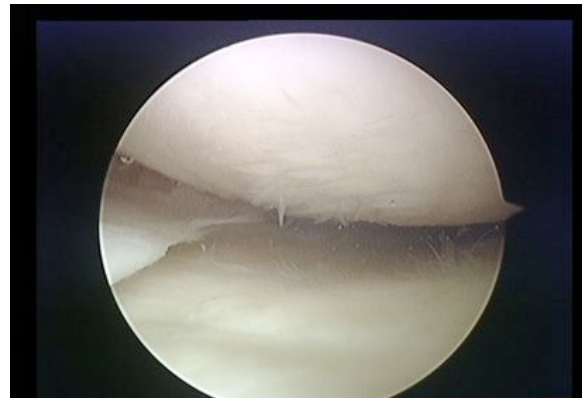


半月板、軟骨損傷なし

左膝



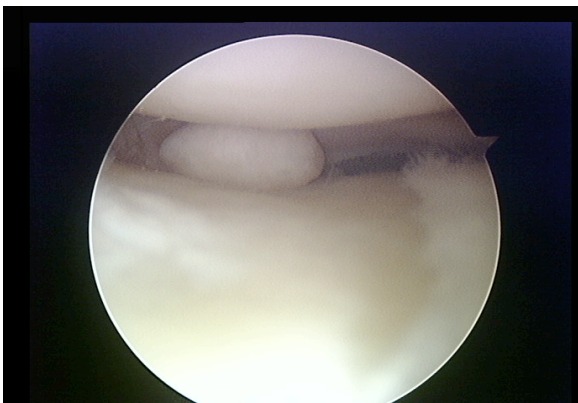
BTB を用いて再々建



半月板損傷



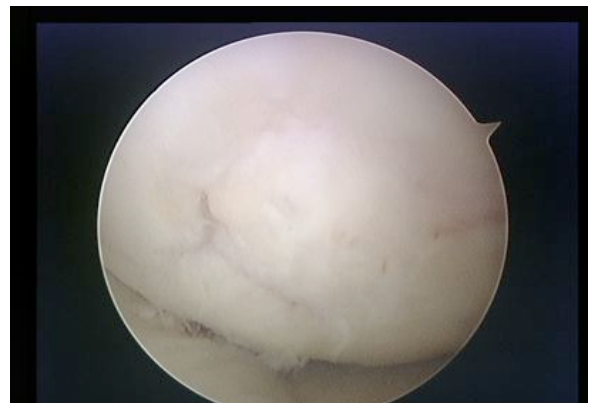
部分切除



関節ねずみ



ねずみ摘出



大腿骨内側顆軟骨損傷



マイクロフラクチャー

【リハビリテーション】

術翌日：左膝は簡易型伸展装具、右膝は装具なしにて pick up walker を使用し歩行開始。

術後 4 日目：両側とも ACL 用装具を装着のもと、独歩自立となった。

以降は、当院の片側 ACLR (BTB) と同様のプロトコールに準じてリハビリテーションを実施。

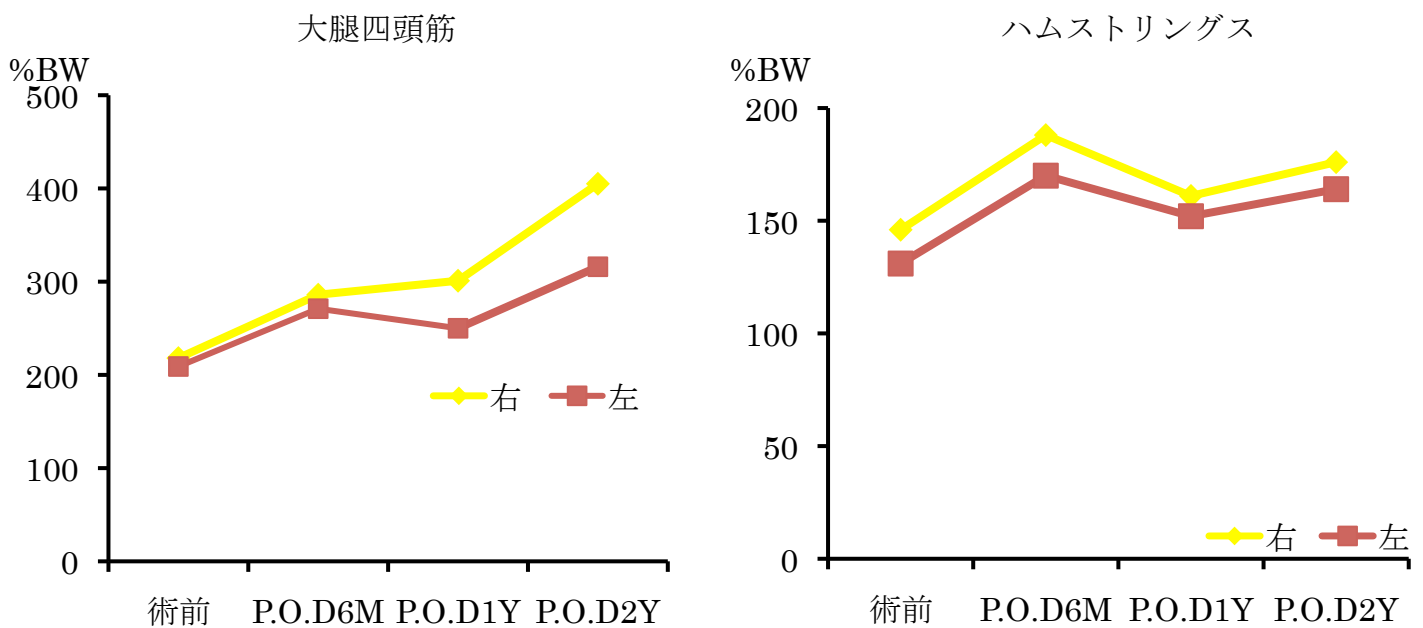
術後 1 日目～	全荷重歩行、OKC トレーニング、ROMex
術後 1 ヶ月	全方向への CKC トレーニング
術後 2 ヶ月	Run、Jump 開始
術後 3 ヶ月	種目別トレーニング、Agility トレーニング
術後 4 ヶ月～	条件*クリアでスポーツ復帰

*スポーツ復帰条件

- ・術後 4 ヶ月以上経過していること
- ・大腿四頭筋筋力が%BW にて 240 以上であること
- ・動作に不安感がないこと

【筋力の推移】

CSMI 社製 CYBEX HUMAC NORM を用いて角速度 60 度で測定。



大腿四頭筋、ハムストリングスともに十分に筋力回復を認めた。

【膝関節不安定性】

Lachman test、Anterior drawer stress test ともに不安定性を認めなかった。

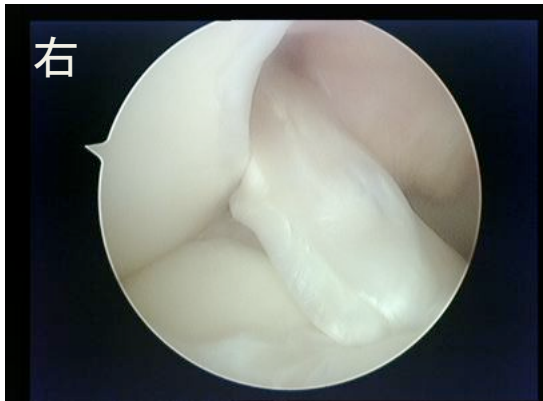
【復帰時期】

仕事復帰:術後 5 ヶ月

スポーツ復帰 (レクリエーションレベル) :術後 9 ヶ月

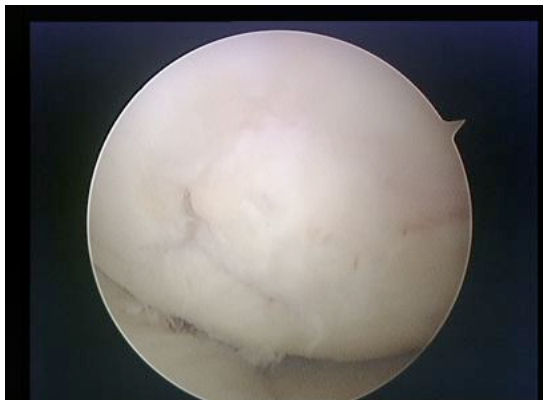
【抜釘術所見】

両膝とも再建靭帯の成熟、緊張度良好



【関節鏡所見 (左膝大腿骨内側顆)】

再々建時



Outerbridge GradeIV

抜釘時



Outerbridge GradeIII

軟骨損傷の改善を認めた。

【考察 1】

軟骨損傷と ACLR について

Julien W

再建術よりも再々建術を行った時の方が、軟骨損傷が重度であった。

Am J Sports Med. 2009 April;37(4)

J. Kennedy

受傷後 18 ヶ月以上経過しての再建術では、重度の軟骨損傷を 60%以上の症例で合併していた。

J Bone Joint Surg[Br]. 2010;92-B

本症例は、再損傷しており、受傷後長期間経過していたため、左膝関節の軟骨損傷が著明であった。

【考察 2】

再々建術後のスポーツ活動について

Julien W

スポーツ活動レベルが低下した者や活動を行わない者が半数であった。

Am J Sports Med. 2009 April;37(4)

本症例は、重度の軟骨損傷を合併していたがレクリエーションレベルでのスポーツ復帰が可能であった。

【考察 3】

抜釘時関節内所見より

軟骨損傷の改善を認め、レクリエーションレベルでのスポーツも行えている。B-ACLR の術後 2 年経過は良好であった。

【まとめ】

- ・ B-ACLR を施行した症例を経験した。
- ・ B-ACLR はスポーツ復帰しても、軟骨損傷の改善を認めたため、術後 2 年の経過は良好であった。